

行政調査報告書「総務企画常任委員会」

令和6年7月22日～24日

■埼玉県春日部市 『新庁舎の建設について』

東日本大震災により庁舎が被災。本庁舎耐震化の方向性を検討し、市民アンケート実施結果及び有識者会議から、移転建替えの方向性を決定した。移転先は、液状化などの地盤の安全性、交通の利便性、既存建物を活用した経済性などの優位性を考慮し、旧市立病院跡地に決定された。災害に強い庁舎のみならず、春日部市にふさわしい庁舎を基本理念に掲げ、まちなかひろばやホール、キッズルーム、レストランからなる市民が集う空間「まちのコモンスペース」を設けてあり、多くの親子連れが利用していた。将来、本市の新庁舎建設をする際に参考となる調査となった。



■茨城県水戸市 『水戸市民会館について』



水戸市では、以前は市庁舎と市民会館が同じ敷地に建てられていたが、現在は駅南地区には市庁舎のみが整備され、市民会館は中心市街地に移転新築されている。「MitoriO（ミトリオ）」として隣接した水戸芸術館や京成百貨店との相乗効果により中心地のにぎわいが創出されている。市民会館内は自由に出入りでき、ラウンジや広場が充実しており、居心地の良いサードプレイスを市民に提供していた。市民アンケートやワークショップなどを通じて市民の声を反映した施設の設計がなされている。本市は庁舎の隣に市民会館があるなど共通する点もあり、将来、建替えを検討する際の先進事例として参考になる視察であった。

■群馬県太田市 『オープンハウスアリーナ太田について』

市民体育館の老朽化が課題となり、災害時にも対応できる避難所拠点となるよう市運動公園内に建設された。プロバスケットボール本拠地として、「持続的な地域活性化の核」となるよう地域貢献活動も力を入れている。ハード面では、国内最大級の可動式センタービジョンは圧巻であった。ホームゲームに合わせて開催する「OTA マルシェ」はチームの魅力を発信し、にぎわいの創出や市をPRする契機となっている。スポーツを軸とした地域活性化を進めるのに参考にしたい事例だと感じた。

